

積層30

—広島市立大学の教員・卒業生作品を泉美術館のコレクションとともに—

展覧会記録

「積層 30」

—広島市立大学の教員・卒業生作品を泉美術館のコレクションとともに—

泉美術館は、株式会社イズミの創業者である美術館初代理事長の故山西義政氏の個人コレクションを核として、1997年に開館した。現在は、2代目理事長を中心に種々の企画展覧会を開催している。このような展覧会の中には、広島市立大学の教員や卒業生の関わる展覧会も少なくない。これには一つに、泉美術館と広島市立大学の交流の歴史が関係している。

開館当初、泉美術館は美術館として手探りの状態であったという。両者の交流はそのような美術館の活動の相談から始まった。やがて広島市立大学の院生・卒業生と、泉美術館学芸員の靄田氏らの間でやりとりは増えていき、交流が深まっていくことになる。特筆すべきは、それが組織同士の堅い対応によって培われたものではなく、例えば卒業生が泉美術館の展覧会準備を手伝ったり、あるいは靄田氏らが卒業生の展覧会を見に来たりと、関係者による気の置けない友人同士のようなコミュニケーションの中から育まれたものであったことだろう。それは、共に育つたと形容しても良いような、幸福な関係性であったようだ。最終的には、泉美術館の展覧会企画に教員や卒業生が関わったり、あるいは広島市立大学の行うアートプロジェクトに泉美術館が支援したりと、多方面での交流に発展した。

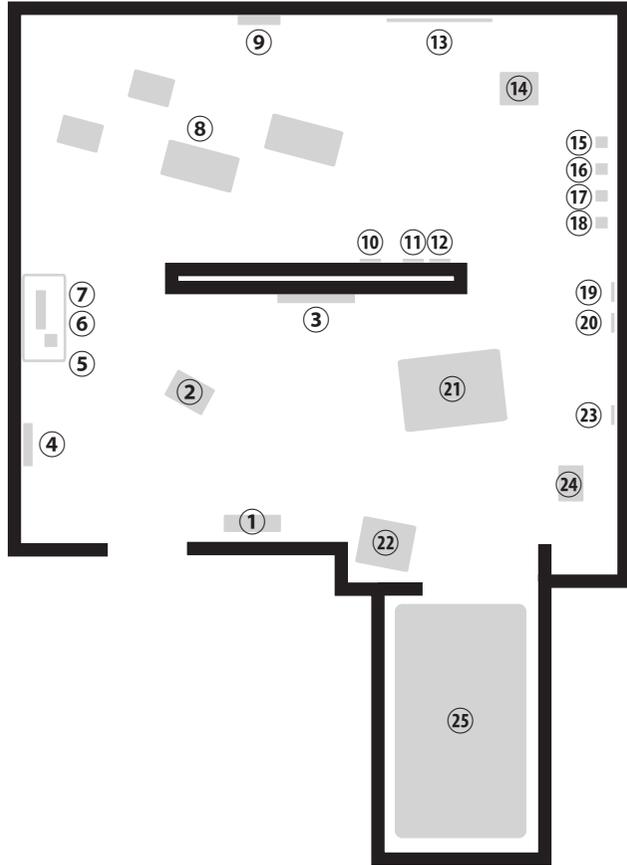
そのような交流の中で、ときに広島市立大学の卒業生の作品を泉美術館で収蔵することがあった。その中には、広島市立大学の助教らが運営を担っていた「広島芸術センター」という手造りの小さなギャラリーで

発表されたものも含まれている。美術館で収蔵する作品はしばしばその作家の作家性をよく示す作品を収蔵するが、そのような機に収蔵される作品には、その作家性が見えてくる前の、いわば「荒削り」なものもある。それは、泉美術館が単に美術館コレクションの充実を図るだけでなく、その作家の未来への期待も含めて収蔵していたことを表している。実際、そうして作品を収蔵された卒業生の中には今も精力的に活動している作家もいるし、様々な事業に熱意を注ぐ者もいる。そのような意味でも、両者は共に育ってきた。

いずれにしても、そのようにして集められた作品が、今ではささやかながら泉美術館のコレクションの一部を占めている。それらからは、作品ひとつひとつの瑞々しさもさることながら、広島という地域の芸術文化に関わってきた両機関の、その歴史の一端も感じることができるともいえない。そのような思いで、広島市立大学の開学30年を機とするこの展示をつくらせていただいた。

それぞれの作家の未来へのエネルギーを秘めた作品をご覧いただくとともに、泉美術館と広島市立大学の交流の歴史、そしてそこから羽ばたいていった人々を想像しながら、ご覧いただければ幸いです。

ゲストキュレーター
細萱航平



①	七搦綾乃	Non sine sole iris (太陽無くして虹は無し)Ⅲ	2016	樟	泉美術館蔵
②	三松拓真	ジャイアント	2022	樟・アクリル絵具・ネイル塗料・ガラスコーティング	泉美術館蔵
③	樋田礼子	井の頭 (5)-来迎-	2021	紙本着色	泉美術館蔵
④	新生加奈	永遠の詩	2015	紙本着色	泉美術館蔵
⑤	丸橋光生	どこかの窓洗い	2021	ビデオ (ループ)	作家蔵
⑥	丸橋光生	窓洗い (2)	2018	ビデオ (ループ)	作家蔵
⑦	丸橋光生	対馬窓	2016	ビデオ (ループ)	作家蔵
⑧	伊東敏光	この彫刻は一万年の生命を持ちヒトの一生の間には10mほど歩くⅢ	2016	鉄	作家蔵
⑨	廣藤良樹	栈橋	2016	紙本着色	泉美術館蔵
⑩	いちだみなみ	ぼわっ	2012	パステル・紙	泉美術館蔵
⑪	七搦綾乃	樹皮と年齢 I	2012	インク・アクリル絵具・紙	泉美術館蔵
⑫	七搦綾乃	さかのぼるためのドローイング	2017	鉛筆・アクリル絵具・紙	泉美術館蔵
⑬	青原恒沙子	humus	2020	油彩・オイルパステル・キャンバス	泉美術館蔵
⑭	長岡朋恵	ありがたい亀のような雨	2014	サドル・毛糸・食品サンプル・ロープ	泉美術館蔵
⑮	入江早耶	ドラゴンフェニックスダスト	2013	はし袋・消しゴムのカス	泉美術館蔵
⑯	楠直明	言葉の夜	2011	大理石	泉美術館蔵
⑰	秋山隆	折鶴	2024	樟・彩色・アクリル・渋柿	泉美術館蔵
⑱	秋山隆	骨 大陸オオカミ	2009	樟・桜・オイル仕上げ	泉美術館蔵
⑲	手嶋勇氣	風景	2018	油彩・キャンバス	泉美術館蔵
⑳	手嶋勇氣	AID #19	2020	油彩・キャンバス	泉美術館蔵
㉑	尾身大輔	空想と虫籠 (イナゴ)	2015	樟・雑木	作家蔵
㉒	尾身大輔	青天の霹靂	2014	樟	泉美術館蔵
㉓	和田拓治郎	名乗り出た達人の世界	2015	洋金箔	個人蔵
㉔	和田拓治郎	餓鬼	2012	鉄	泉美術館蔵
㉕		プロジェクトの記録	1995-2023		作家蔵



左 尾身大輔《青天の霹靂》

右 七搦綾乃《Non sine sole iris (太陽無くして虹は無し)Ⅲ》



左彫刻 三松拓真《ジャイアント》

左壁面 樋田礼子《井の頭 (5)-来迎-》

手前 尾身大輔《空想と虫籠 (イナゴ)》



左壁面 新生加奈《永遠の詩》

モニター 丸橋光生《どこかの窓洗い》《窓洗い(2)》《対馬窓》



手前彫刻 伊東敏光《この彫刻は一万年の生命を持ちヒトの一生の間には10mほど歩くⅢ》

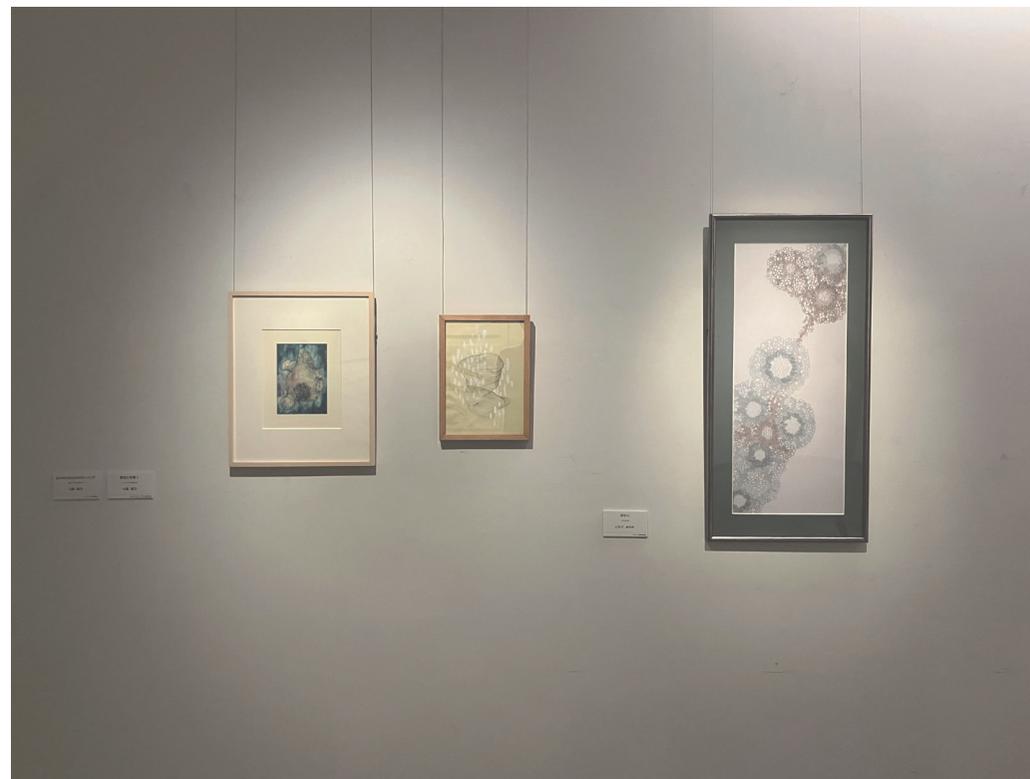


壁面 廣藤良樹《栈橋》

左 七搦綾乃《さかのぼるためのドローイング》

中央 七搦綾乃《樹皮と年齢Ⅰ》

右 いちだみなみ《ぼわっ》





奥壁面 青原恒沙子《humus》



手前 長岡朋恵《ありがたい亀のような雨》



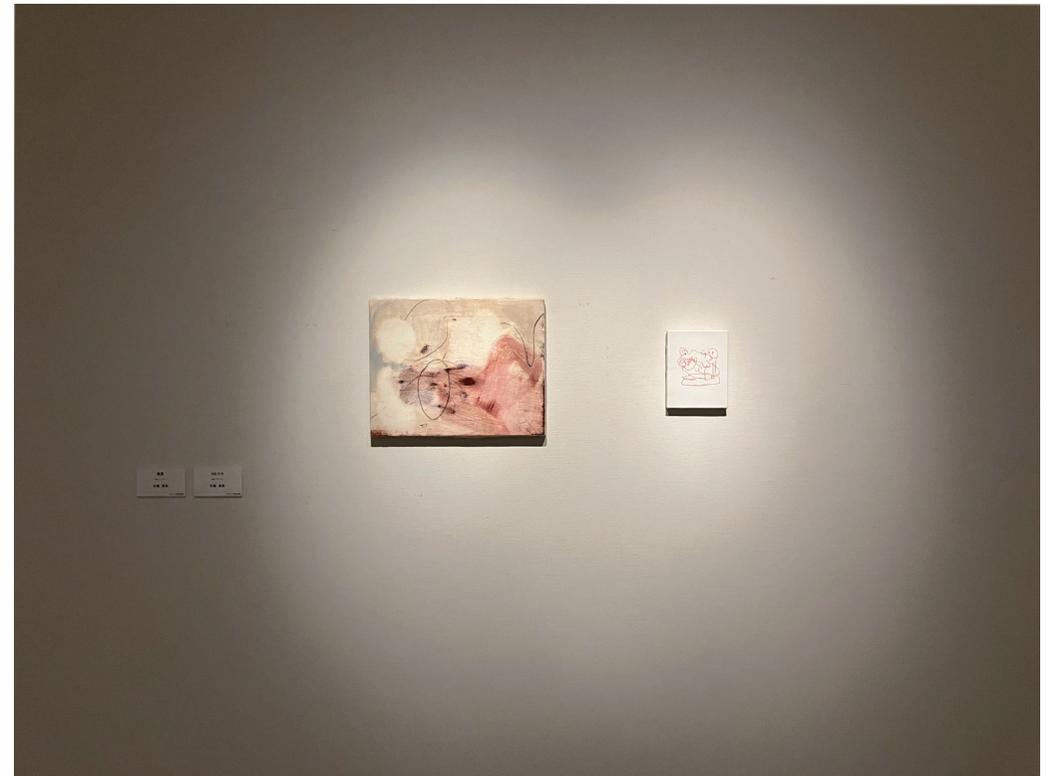
左から

入江早耶《ドラゴンフェニックスダスト》

楠直明《言葉の夜》

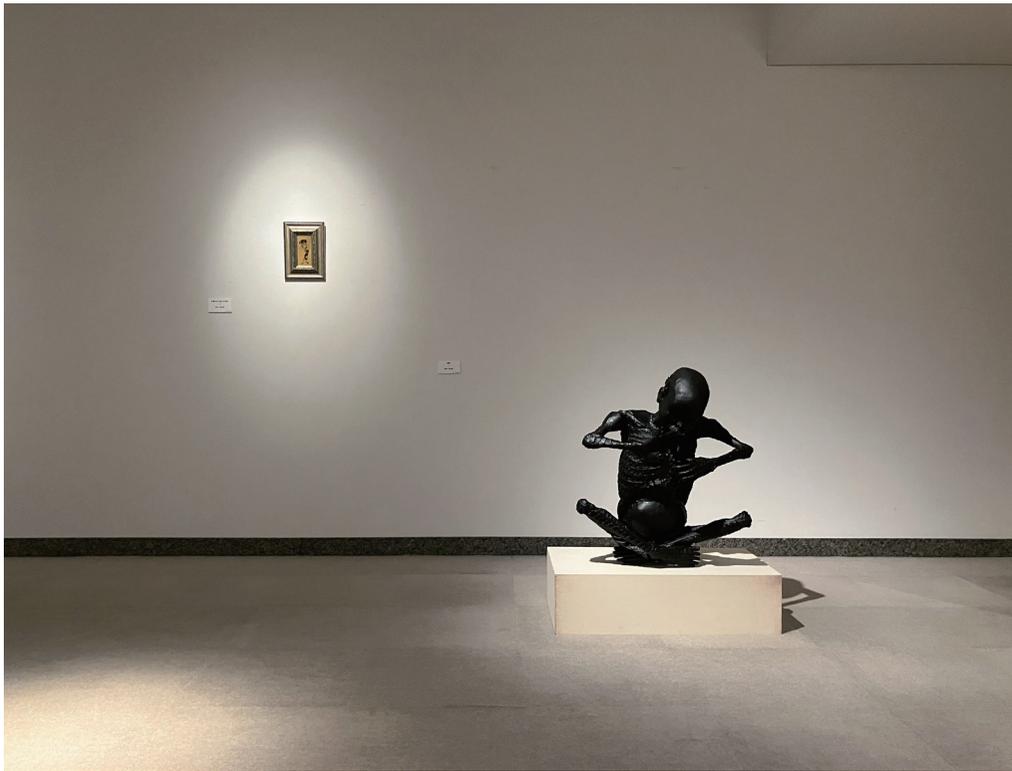
秋山隆《折鶴》

秋山隆《骨 大陸オオカミ》



左 手嶋勇気《風景》

右 手嶋勇気《AID #19》



壁面 和田拓治郎《名乗り出た達人の世界》

彫刻 和田拓治郎《餓鬼》



七搦綾乃

〈プロフィール〉

1987年鹿児島県生まれ。広島市立大学大学院芸術学研究科彫刻専攻博士前期課程修了。山や木、虹などの事物や現象が持つ「自然の時間」や、そこに潜む「死」のイメージなどを、木彫やドローイングで表現する。

〈近況〉

2024年4月に金沢美術工芸大学彫刻専攻に講師として着任。3人の子どもを育てながら新天地で活動中。

三松拓真

〈プロフィール〉

1998年大阪府生まれ。広島市立大学大学院芸術学研究科彫刻専攻博士前期課程修了。車や動物など身近な存在を主に木彫でユーモラスに表現。絵画や素描なども並行して制作する。

〈近況〉

木彫で乗り物と動物が合わさった作品では家族の習慣を起点として展示する場所に合わせた物語をインスタレーションで展開しています。

樋田礼子

〈プロフィール〉

東京都生まれ。広島市立大学大学院芸術学研究科日本画専攻博士後期課程修了。『井の頭』の連作より【阿弥陀来迎図】をテーマとした近作は、日本美術院において奨励賞を連続受賞。2024年は日本美術院賞（大観賞）と東京都知事賞を受賞した。現在、日本美術院特待。

〈近況〉

生きとし生けるものや自然に対する畏敬や美意識を、より精神世界へと深めながら日本画で昇華させたいと考えている。

手嶋勇氣

〈プロフィール〉

1989年北海道生まれ。広島市立大学大学院芸術学研究科造形芸術専攻博士前期課程修了。写実絵画の技法研究と制作を経て、即興的でドローイングのような絵画を制作する。現在は土地の歴史的な文脈や文化的な文脈に自身が接続される試みとして「風景」を主な題材として描く。

〈近況〉

横川で呑んでくれていたが、別府での滞在を機に、お酒は控えめに長らくやめていたランニングを再開している。

丸橋光生

〈プロフィール〉

1982年京都府生まれ。広島市立大学大学院芸術学研究科彫刻専攻博士前期課程修了。作品を通して鑑賞者の視覚や認識を揺さぶることをテーマに、立体、映像、写真など様々なメディアで制作を行う。

〈近況〉

2024年より石川県金沢市に拠点を移し活動中。

伊東敏光

〈プロフィール〉

1959年千葉生まれ。1987年東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。現在、広島市立大学芸術学部教授。近年は「風景彫刻」を研究テーマとし、様々な角度から風景と彫刻作品による空間表現を追求している。

〈近況〉

1994年の広島市立大学開学と同時に芸術学部助手として着任し、制作活動と並行して「対馬アートファンタジア」「三都半島アートプロジェクト」等のアートディレクターとして、地域展開型のアートプロジェクトの企画・運営に携わってきました。2024年3月退任を迎えます。

廣藤良樹

〈プロフィール〉

1975年広島生まれ。広島市立大学大学院芸術学研究科日本画専攻博士前期課程修了。春の院展／奨励賞（'07、'12、'16、'23）、外務大臣賞（'09）。現在日本美術院特待。瀬戸内の情景を重厚なマチエールと色調で表現する。

〈近況〉

院展を中心に制作発表を行いながら、備後地区の日本画指導に務める。新たなモチーフや表現技法を模索中。

いちだみなみ

〈プロフィール〉

1989年神奈川県生まれ。2011年金沢美術工芸大学を卒業後、2013年広島市立大学大学院芸術学研究科彫刻専攻博士前期課程修了。さまざまな変遷と深化を経て「0地点へ向かう心の表現」に辿りつき、「±0の心の世界」として平面絵画やインスタレーション作品として発表している。

〈近況〉

近年まで鹿児島県を中心に活動をしていましたが、現在は関東方面へ活動の範囲を広げている途中です。心の赴くままに”ただそこに在る”人の心に寄り添うアート”を探す旅を続けています。

青原恒沙子

〈プロフィール〉

1993年広島県生まれ。広島市立大学芸術学研究科造形芸術専攻博士前期課程修了。近年はダナ・ハラウェイの提唱する「堆肥体（逆巻しとね訳）」に触発され、土に向かうものとして一つの名詞に集約し切れないうねうねとした存在を絵画、また布や粘土などのオブジェで表現する。

〈近況〉

2022年からドイツに移りましたが、どこにいても、関わり合いが豊かに行われる多種混濁としたぬた場を探している、もしくは構築したいと言う点は変わらないと思います。また、泉美術館も大事な場所のひとつです。

長岡朋恵

〈プロフィール〉

1980年広島県生まれ。広島市立大学大学院芸術学研究科彫刻専攻博士後期課程満期退学。多様な素材を用いた制作により、自身の体験や実感に基づいた世界の再認識を試みている。

〈近況〉

2人の子供を授かり、高校・中学校の美術の非常勤講師をしつつ、制作をしておりましたが、納得のいく向き合いができず2018年以降は制作を休止しております。子供達がダンスを始めた事をきっかけに、身体による表現の魅力に夢中になりサポートもしています。

入江早耶

〈プロフィール〉

1983年岡山県生まれ。2009年広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了。印刷物のイメージを消しゴムで消し、得られたカスを再構築した立体物およびナラティブを用いて、物事に宿る魂や日常の潜在的な事象との出会いを創造している。

〈近況〉

近年はAIRでの創作に力を入れており、国際芸術センター青森、ニューヨークのISCP、今年はジョグジャカルタのASPにて物語と彫刻の融合的表現のリサーチを行うなど、神話学のアップデートをテーマに挑戦を続けています。

楠直明

〈プロフィール〉

1983年神奈川県生まれ。東京造形大学大学院造形研究科を修了後、広島市立大学芸術学部彫刻専攻研究生修了。作家自身と「モノやコトとの関係」を築き確かめるような制作を行なう。

〈近況〉

現在、山口県にて造園の仕事をしています。庭の施工をしつつ造園の勉強しながら彫刻を手掛け、造園業者と研修旅行（国内の美術館や庭園など）に励んでいます。

秋山隆

〈プロフィール〉

1975年広島県生まれ。2000年広島市立大学大学院芸術学研究科彫刻専攻修了。「自然と人工」を主題に百貨店、アートフェア等で個展・グループ展を熟している。

〈近況〉

2025年1月仙台三越で特集展、2月岡山、6月大阪、9月日本橋高島屋で個展開催予定。

新生加奈

〈プロフィール〉

1977年東京都生まれ。広島市立大学大学院芸術学研究科日本画専攻博士後期課程満期退学。母子像を多く手がけ、人物を通してかけがえのない存在を表現する。現在日本美術院院友。

〈近況〉

現在は神奈川県在住です。小学校の図工の先生などをしながら制作しています。学校で児童とのふれあいで感じた感動や、日々の心に残った出来事をもとに制作し、院展や個展・グループ展などで発表しています。

尾身大輔

〈プロフィール〉

1992年香川県生まれ。2016年広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了。木彫を中心に、神話・妖怪などの民俗信仰を基盤として、場所や物を見て思い浮かべた自身の空想した生き物を彫刻として具現化している。

〈近況〉

2023年に広島県三原市の小佐木島に移住し、(公財)ポエック里海財団の文化芸術担当として島にあるギャラリーの管理と作品制作を行っています。瀬戸内国際芸術祭2025に出品予定ですのでそちらもよろしくお願いいたします。

和田拓治郎

〈プロフィール〉

1975年広島県生まれ。2003年広島市立大学大学院芸術学研究科彫刻専攻博士後期課程修了。飲食店を舞台とした巡回個展「夜景レストラン」を主催。照明メーカー maxray・スワロフスキージャパンをはじめ、広島では歴清社等、光+箔+作品の融合をテーマとしたコラボレーション展覧会を開催。

〈近況〉

現在は、株式会社和田拓治郎事務所代表、立体作品・WEB・什器・アクセサリー等デザイン。有限会社和田造園四代目として、県内外の緑化設計・施工・管理に携わっています。

細萱航平

〈プロフィール〉

1992年長野県生まれ。2020年広島市立大学大学院芸術学研究科彫刻専攻博士後期課程修了。モニュメントや地質学における時空間の表象を参考にしながら、彫刻やインスタレーション、展覧会のキュレーションとしてプロジェクトを展開する。

〈近況〉

近年は宮城県を拠点に作家活動をしています。地質学の研究にも挑戦し、論文の執筆に取り組んでいます。

[会期]
2024 年 11 月 30 日 (土) ~ 2024 年 12 月 22 日 (日)

[会場]
第 1 展示室

[開館時間]
11:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)

[入場料]
無料

[休館日]
月曜日
(※ 1 月 10 日 (祝) は開館、年末年始休館 : 12 月 30 日 ~ 1 月 1 日)

[出品作家 (50 音順)]

青原恒沙子

秋山隆

伊東敏光

いちだみなみ

入江早耶

尾身大輔

楠直明

新生加奈

手嶋勇氣

樋田礼子

長岡朋恵

七搦綾乃

廣藤良樹

丸橋光生

三松拓真

和田拓治郎

積層 30 - 広島市立大学の教員・卒業生作品を泉美術館のコレクションとともに -
展覧会記録

発行 : 2025 年 1 月

編集 : 細萱航平

[ゲストキュレーター]

細萱航平

公益財団法人

泉美術館